

■**島津義久**　〃**島津の英主**〃**貴久の嫡男で、3人の弟とともに躍進、最大版図を築き、豊臣秀吉に降伏するも政治力を持ち続けた。**
しまづよしひさ
・ ・ ・ ・ ・ 1533＝
・ ・ ・ ・ ・ 1535＝ 2歳
・ ・ ・ ・ ・ 1537＝ 4歳
今川義元登場1542＝ **9歳**：
鉄砲伝来・ ・ 1543＝10歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1544＝11歳：
足利義輝將軍1546＝13歳
勘合船終・ ・ 1547＝14歳
大内布教許可1550＝17歳
織田信長登場1551＝**18歳**：
大友布教許可1552＝19歳
・ ・ ・ ・ ・ 1554＝21歳
・ ・ ・ ・ ・ 1557＝24歳
大友府内開港1559＝26歳
桶狭間の戦・ 1560＝**27歳**：
川中島最激戦1561＝28歳
川中島の戦終1564＝31歳
・ ・ ・ ・ ・ 1566＝33歳
織田信長入京1568＝35歳
京都宣教師可1569＝**36歳**：
石山合戦始・ 1570＝37歳
比叡山焼討・ 1571＝38歳
三方原の戦・ 1572＝39歳
室町幕府滅亡1573＝40歳
長島一揆鎮圧1574＝41歳
長篠の戦・ ・ 1575＝42歳
安土城築城・ 1576＝43歳
上杉謙信没・ 1578＝**45歳**：
石山合戦終・ 1580＝47歳
パリーノ謁見 1581＝48歳
本能寺の変・ 1582＝49歳
賤ヶ岳の戦・ 1583＝50歳
長久手の戦・ 1584＝51歳
豊臣秀吉関白1585＝52歳
秀吉太政大臣1586＝53歳
パレン追放令 1587＝**54歳**：
刀狩海賊取締1588＝55歳
秀吉全国統一1590＝57歳
方広寺大仏殿1593＝60歳
ルツ島通交・ 1594＝61歳
26聖人殉教・ 1596＝**63歳**：
豊臣秀吉没・ 1598＝65歳
関ヶ原の戦・ 1600＝67歳
朱印船制始・ 1601＝68歳
東本願寺創建1602＝69歳
糸割符法始・ 1604＝71歳
徳川家康隠居1605＝**72歳**：
島津琉球支配1609＝76歳
山田長政渡航1611＝78歳
Wikipedia, 新名一仁「〃不屈の両殿〃島津義久・義弘 関ヶ原後も生き抜いた才智と武勇」、

薩摩国伊作城で、島津貴久の嫡男に生まれる。母は、室で有力国衆入来院重聡の娘雪窓。幼名は虎寿丸。伊作家の出祖父忠良は、その母が島津相州家に再嫁して当主になり、父貴久は、本家島津奥州家勝久の養子になっていたが、島津本宗家家督を巡って、薩州家も合わせた三つ巴の抗争が勃発していた。弟義弘が誕生。三弟歳久が誕生。幼少の頃は大人しい性格で、祖父忠良から、猛将タイプの弟義弘に対して、総大将の器と評価され、期待されて育つ。この間、祖父忠良が薩摩半島を統一し、父貴久は本宗家継承するも、支持が広がらないなか、

母が死去。まもなく父が後室を迎え、直前まで父貴久の本宗家継承に反対していた北郷忠相を加冠役に、元服。末弟家久が誕生。元服して、祖父と同じ忠良を諱とし、通称は又三郎と名乗る。異母弟家久について、のちに、三弟が母の違いを仄めかした際、それを論じたが、それを聴いていた家久は、俄然、文武に励むようになり、以後、四兄弟は、遜色なく対等に島津家のために活躍するようになったという。父貴久が、鹿児島に〃御内〃を築き、以後、60年間、島津本宗家の居城になる。室に(父とは異母の)叔母を迎えていて、長女御平が誕生。將軍足利義輝からの偏諱を受け、義辰と名乗り、後に義久と改名。父貴久による大隅国始羅郡制作作戦のなか、蒲生氏ら薩摩・大隅の反島津の国衆らに対する岩剣城攻めで、弟と_初陣、以後、父のもとで戦い続け、蒲生氏が降伏し、室が死去。

祖父忠良から、帝王学を示した五か条の教訓状を与えられる。***朝廷から、父貴久が奥州家の正統性を示す陸奥守に任じられるのに合わせて、修理大夫に任じられ、その後継者であることが認めらる。**父の隠居により家督を相続し、島津家第16代当主になる。以後は、弟たちをリードして戦い続ける。祖父日新斎が死去。_日向の伊東義祐が、長年の攻伐に勝利して飢肥城を開城させ、飯野城に照準、2年に及ぶ大口城籠城戦を決着させて、相良氏と菱刈氏を駆逐すると、東郷氏・入来院氏も降伏し、_薩摩統一がなり、父貴久が死去。***侵入してきた伊東義祐の軍勢を、飯野城にいた弟義弘が迎え撃ち壊滅させて(木崎原の戦い)、** 嗣寝氏を、肝付氏と伊地知氏を帰順させ、_大隅統一も果たし、最後に残った日向国に向かい、伊東義祐と和睦させようと、織田信長の命で、薩摩に下向してきた前関白近衛前久には適当に対応し、伊東氏の高原城を攻略すると、伊東方の支城主は次々と離反、義祐は豊後国の大友宗麟を頼って亡命、***大友宗麟が大軍を率いて日向国に侵攻、少数だった島津軍は大友軍に奇襲をかけて、壊滅させ(耳川の戦い)、三州統一を達成。身体を張って戦った弟義弘に対し、万感を込めた感状を発給。**毛利氏攻撃に大友氏を参戦させようとする織田信長の求めに応じ、大友氏との和睦を受諾。球磨の相良氏を帰順さる。この間、_大友氏に代わって、肥前国の龍造寺隆信が台頭、この頃から、内蔵疾患系の病〃虫気〃をたびたび発症し、重症化するこも。毛利攻めに参陣する計画を立てるも、信長が倒れて立ち消えに。_その圧迫に耐えかねた有馬晴信からの求めに応じ、龍造寺方の千々石城を攻め落とし、これを機に、晴信は島津氏に服属する。有馬氏の親戚で、_龍造寺氏に背いた安徳純俊も支援し、家久を総大将として島原に派遣すると、敵の圧倒的兵力を湿地帯におびき寄せて圧勝(沖田畷の戦い)、龍造寺氏が軍門に降ったことで、肥後国の隈部親永、筑前国の秋月種実ら、次々と島津氏に服属してくる。義弘を総大将とした島津軍が肥後国の阿蘇惟光を下し(阿蘇合戦)、肥後国を完全に平定し、義弘を肥後守護代とする。この危機に、大友宗麟から助けを求められた秀吉から。九州での戦争を禁じる書状「惣無事令」が届くも、これを無視して、大友氏の所領の筑前国の攻撃を命じる。

豊臣秀吉から直書に、宛名を細川幽斎にして返信、秀吉の出自の低さを厳しく指摘する内容で、島津氏に対する秀吉の心証を非常に害した可能性があるといわれる。_八代に本陣を置いて筑前攻めの指揮を取り、大友方筑紫広門を下すと、多くの大名・国衆が参陣。ついで、高橋紹運の守る岩屋城を落すが、多数の死者を出す誤算となり、立花宗茂の守る立花城は諦めて、豊後侵攻へ方針を転換。撤退する際に、立花宗茂の追撃で岩屋城ほかを奪還され、以後、攻撃に手間取るうち、豊臣連合軍の先発隊が九州に上陸したが、家久はこれを迎え撃ち圧倒(戸次川の戦い)。大友義統は戦わずに北走したため、家久は府内城を落とし、大友宗麟の守る臼杵城を包囲するが、

***豊臣軍の先鋒豊臣秀長率いる部隊が豊前国に到着し、日向国経由で進軍した。続いて、豊臣秀吉率いる本隊が小倉に上陸し、肥後経由で薩摩国を目指して進軍してきたため、退陣を余儀なくされ、諸大名や国人衆は一部を除いて、次々と豊臣方に下り、島津軍は多くの犠牲を出し、本国・薩摩国へと撤退・敗走。鹿児島に戻ると、剃髪して、名を龍伯と改め、川内の泰平寺で秀吉と会見し、正式に降伏した。秀吉は島津家の領地としてまず義久に薩摩一国を安堵し、義弘に新恩として大隅一国、義弘の子の久保(義久には男児が無かったため、甥の久保に三女亀寿を娶わせ後継者と定めていた)に日向国諸縣郡を宛行った。弟義弘には、秀吉から羽柴の名字と豊臣の本姓が与えられたが、自分には羽柴の名字のみで、以後、豊臣政権との折衝には義弘が主に当たることになるが、秀吉の施策に、家臣らはなかなか応じず、朝鮮の役では、重臣の一人が肥後国で反乱を起こすほどで、ついに、秀吉は不服従者の代表として歳久の首を要求し、義久は歳久に自害を命じるに至る。朝鮮で久保が病死したため、久保の弟の忠恒に亀寿を再嫁させて後継者する。秀吉政権が弟義弘を島津家当主として扱ったため、大隅の富隈城に退去したが、島津家伝来の〃御重物〃は引き続き保持して、島津領内での実権は依然として握っていて、〃兩殿体制〃となり、**

秀吉が死去し、朝鮮の役が終わると、泗川の戦い等の軍功を評価され、島津家は5万石の加増を受けるが、家中の軋轢は強まり、忠恒が伊集院忠棟を斬殺する事件が起こる。関ヶ原の戦いでは、弟義弘が西軍に加担することになり、国元に援軍を要請してくるも動かなかったが、間接的に支援したため、薩摩攻めが計画されるも、家康が中止を命じ、講和交渉を開始。家康が島津氏に譲歩を重ねていくという形で進展していき、家康の上洛要求には体調不良で断り続けるうち、弟義弘とともに、元来、動物好きで、猫のブリーダーとしても知られており、この年、近衛前久の求めに応じて、猫6匹を贈り、以後も、前久の娘たちのために、年に、2,3匹贈り続けている。***反対を無視するように、忠恒が上洛して、島津領国の安堵が確定し改易を免れる。〃御重物〃と当主の座を忠恒に譲り渡して隠居するが、以後も江戸幕府とその都度書状をやりとりするなど絶大な権威を持って〃三殿体制〃と呼ばれ、徳川家康は、かねて聞いていたより恐ろしい大将であると感心したという。**この頃には、腫物も発症、重症化して行き、大隅の国分に城を築いて、移住。タバコの生産を奨励し、薩摩藩の貴重な収入源となっていく。家康の配慮で、上方の名医祐乗坊が下向して治療に当たるも、思わしくなく、鳩を可愛がりながら暮らすうち、娘の亀寿と忠恒の不仲などから関係は次第に悪化、_三殿の関係が疎遠になって、**不穏な噂が立つなか、**忠恒が主導する琉球侵攻まもなく、国分城で、駆け付けた弟義弘、娘亀寿たちが見守るなか、_没した。側近ら15名が殉死している。

島津琉球支配1609＝76歳
山田長政渡航1611＝78歳
Wikipedia, 新名一仁「〃不屈の両殿〃島津義久・義弘 関ヶ原後も生き抜いた才智と武勇」、